

第1回 塩竈市長期総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時 令和7年12月23日（火） 18:30～20:30

場 所 塩竈市魚市場 中央棟2階 大会議室

出席委員 柳井委員、草間委員、佐々木委員、大学委員、杉山委員、土井委員、鈴木委員、永野委員、郷家委員、大山委員、阿部委員、横内委員

欠席委員 6名

塩 竈 市 市長、副市長、総務部長、政策調整監

事 務 局 総務部政策課

第1回 塩竈市長期総合計画審議会の概要
1. 開会
2. 委嘱状交付 市長より委員を代表し、柳井委員に委嘱状を交付
3. 市長挨拶 (内容) <ul style="list-style-type: none">・本日は、年の瀬のお忙しい中第1回塩竈市長期総合計画審議会にご出席を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。・第6次塩竈市長期総合計画は、令和4年度を初年度として、令和13年度までの10年間の計画であり、従来は10年間の計画期間であったが、今次計画より基本計画を前期・後期の5年間に分けることで、昨今の早い時代の流れに対応することを考慮している。・個性豊かで調和のとれた持続可能なまちづくりに向けて、目指す都市像に「海と社に育まれる楽しい塩竈」を掲げ、歩みを進めている。・この審議会は、令和9年度から始まる後期基本計画に向け、審議会委員の皆様よりご意見を頂き、共に考え、持続可能なまちを創り上げるため、時代に即した計画を策定することを目指している。・港湾計画の改定を控えており、今後の塩竈市の港の在り方について議論をしている。具体的には海上保安部基地、仙台港区補完港としての塩釜港区の整備についてである。・また、港奥部の考え方として埋め立てを行い、導線を結び付けて鹽竈神社の表坂まで観光メニューを検討し、「楽しい塩竈」に繋がられるようにしたい。・16年後に市制施行100周年を迎える塩竈市の姿という目標に向けて一心不乱に努力し、「海と社に育まれる楽しい塩竈」の実現に向け、令和9年から始まる後期基本計画に息を吹き込んでいただけるよう議論のご協力をお願いし、どのようなまちであれば住みたいのか。率直な意見を遠慮なくお聞かせ願いたい。
4. 会長選出 塩竈市長期総合計画審議会設置条例第4条に基づき、委員の互選により、柳井委員を会長に選出。柳井会長の指名により、草間委員、佐々木委員が職務代理となった。 (内容) <ul style="list-style-type: none">・地域づくりは人づくりに始まり、人づくりに終わる。・明確なビジョンを市民に示していく必要がある。また、全員の合意のもとに意思決定をする必要がある。・ネゴシエーションを図りながら市民を巻き込んでいかななくてはいけない。・皆さまの忌憚のない意見とクリティカルシンキングを行ってほしい。多くのものを叩いて議論を交わしてほしい。
5. 諮問 市長より柳井会長に諮問書を手交

6. 議事

(1) 第6塩竈市長期総合計画の概要

事務局より資料1に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

(内容)

○すみよさ実感プロジェクトは実績値が目標値をクリアしているが、世代間での内訳はどうであったか。そこも含めて評価していきたい。

(2) 塩竈市のまちづくりに関する市民アンケート結果、(3) 塩竈市のまちづくりに関する企業アンケート結果

事務局より資料2、3、参考資料1、2に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

(内容)

○地域医療体制の充実について、市民アンケートでは満足度が低い結果であった。日頃より地域医療体制の提供を行っているが、足りない部分があることは感じている。特に今年の10、11月にはインフルエンザが流行し、どうしても対応しきれない部分があった。需要と供給のギャップがあるところを機能的にどう埋めていくか議論はしなくてはならない。

○アンケート調査について、まちづくりが抽象的であり答えにくかったのではないか。

→市民の方に市が行っている事業に対して興味があるかも含めて幅広くお聞きしたいと考え、調査を行っている。

興味があるという回答では、「広報誌を読むなど、まちづくり情報を積極的に受け入れる」や「地場産業を活性化するよう地産消費を心がける」などの回答が見られた。(事務局)

→まちづくりは住むまちでなにもしないのではなく、何かしらの活動を行えば、まちづくりになると考えている。いわゆる町内会活動やボランティア活動も、地域のために活動するということがまちづくりであると思う。

→ご回答いただいた内容の選択肢があったが、回答率は若干低めな状態であり、特に働いている世代が少ないことから難しい部分があるのかと感じている。(事務局)

○本意識調査は社会学的な手法を取っている。満足と回答した人のそれぞれの満足の度合いは違う。性質は把握できるが、本当の満足度はわかりにくくなっている。数字で回答を貰うなどアンケートの設計を検討していただきたい。

○塩竈市の魅力について、鹽竈神社や門前町などの回答が高かったことが印象深い。この結果は塩竈市への愛着や誇りに繋がっていると考えられる。

○塩竈市への誇りや愛着が若年層に多いとあったが、回答率をみると低い。回答した方が、塩竈市に貢献したいという思いからこの高い数字になったのではないかと思う。正確に数値を取るためには小学校に協力を求めるなど一つの手ではないか。また、30代の回答が低くなっている部分も気になった。子育てや家を買う時期であるのでこの世代に魅力を感じてもらう必要があると考える。

→30代の塩竈市への愛着、魅力を感じていると答えた回答は7%にとどまり低い数値である。詳細部分についてはこの調査からは読み取れない部分である。(事務局)

○塩釜の魅力について、現状、魅力を感じる部分であるが、以前の調査時はどうだったかなど見れる値があると比較でき、現在行っている事業の方向性の正しさや数字の変動が掴め、原因の深堀ができると考える。また、重要度と満足度のマトリクスについて、アンケート調査でより具体的に聞くことができると、目的や課題が見つかると思う。

→こちらのアンケートは前回、第6次長期総合計画策定時と概ね同じものを実施しており、比較することが可能である。重要度と満足度のマトリクスに関しては、概念的な表現も多いが、各項目について平均をまとめたものを表示している。(事務局)

○このマトリクスは注意が必要である。抽象的な項目で満足度、重要度共に高く、生活に身近な部分で満足度が低い。後期基本計画を考える際は手法を考えなくてはならない。

○まちづくりの参加について「わからない」と回答する人が思いのほか多かった。このような人を地域活動に誘導してほしい。いろんな形で地域が進んでいくと考える。

→この「わからない」と回答した方は参加の方法だけでなく、周知不足から導かれた回答としても考えられる。(事務局)

○市長の挨拶にキーワードがあった。塩釜港の整備や国道の整備など幼いころより聞いていた内容があった。基本計画の中でその内容も触れられるとよいと思う。

→長期総合計画では整備することの計画は難しいが、まちづくりの大きな枠組みの中で検討していきたいと思う。(事務局)

○市場で仕事をしているが、水揚量は12月末まで100億程度である。背後地に300億ぐらいの生産がある。ニュースになるのは水揚量であり、石巻や気仙沼に負けている。ただし、合計は負けていない。

問題は人材が不足している。現在、外国人実習生に頼っているが多く人数を雇えない制度的なハードルもある。最近では語学留学生在が午前や午後に分けて入れ替わりでアルバイトをしている現状がある。

→塩竈市の強みは産業の強さである。海があったからこそ神社も立派になり、産業資本家が生まれる土地である。

○満足度・重要度のマトリクス内の高齢者・障がい者福祉等の充実を見てみると満足度を見ると低い数値であり、より一層努力が必要であると実感した。塩竈市は独居高齢者の比率が高く、県内でも高齢化率がとても高い。

○貧困の問題がある。そのミスマッチが解決するとうまく回る。例えば安心して子供を預けられると、水産加工業で働きたい方が仕事に出るようになるなど利点がある。

○塩竈市には小児科がない。内科で子供は診察できるが、単独の専門医がない現状にも不満があるのかもしれない。

→地域医療体制の充実について、保険・医療・介護分野の連携強化の推進、休日・夜間の安定的な医療提供、私立病院を中心とした地域医療体制の充実のアンケート結果を用いている。(事務局)

(4) 人口と産業の動向

事務局より資料4、参考資料3に基づいて説明後、質疑応答、意見交換
(内容)

○人口について、人口が減少することが経済の衰退ではない。コミュニティの強さがあれば、はるかに豊かな生活が送れる。ただし、人口が減少すると人材が流出する可能性があるため、穴埋めできずに産業が停滞や減退する。産業については地域産業連関といって取引先の廃業などが起こる。そのようなことが想定できていれば良い。人口減少に悲観的にならずに話し合いを進めたい。

○転出者よりも転入者が多いことに関して、塩竈市内で新築物件を見るようになった。そのような影響はあるのか。私の家の近所でも多く見る。

→少しは関係しているとは思いますが直接ではない。近隣と比べると空き家率について塩竈市は高い。

→数十件ある空き家のうち、大体使用できる物件は数件である。数件以外はすべて朽ちていくだけで土地を交換するなど空き地をつくる工夫が必要となる。

○人口減少については仕方ないと考えるが、子育て世代に選ばれる取り組みなど、総合的に人口減を考えなくてはならない。

→社会増については、外国人の住民の方々の伸びがあげられる。新型コロナウイルス感染症で一時的に減少したがそれ以降は増加している。(事務局)

○仙台市はマンションの価格が高騰しており、若い層が住みにくくなっている。そのため若い層が仙台市近郊に住む選択を取っている。個性を出し塩竈市の魅力を追及してほしい。

○塩竈市は家を建てるのに地価が安く立てやすく、JR市内に2線4駅あるなど立地的な適性がある。

○ミシュランのビブグルマン掲載店舗数は仙台に負けているが、人口比でいうと仙台に勝る。他地域はそれほどでもない。塩竈市は食の都であり、食育などに絡めて考えることもできる。ストーリーを考え、それを直接地域に落とし込んでもよい。そういったものが実現すると楽しく地域づくりができると思う。

○楽しい塩竈をどう描いていくかを前回策定時は途中から考えいった経過がある。これから生きる人たちは希望に溢れているが、同様に不安があり、考えるべき課題も多い。人口問題や環境問題など現代の人が学ばなければいけないものが多く、昔とは異なっている。しかし、どの世代も共通として楽しくいきたいと思っている。

今回の審議会は、マイナスのデータも出てくるが、「楽しい塩竈」というキーワードで、意見を交換できれば良いと考えている。希望を持った形で、長期総合計画を見ていく必要があるのではないか。

市民が参加できる土壌を作って、塩竈市をプラスにしていくような舞台を作っていきたいと思う。一人、二人では解決できないので共同で議論を進めていきたいと思う。

○庁内での共有意識を高める働きかけを行ってほしい。基本計画策定はできないことに注目するのではなく、できることに注目して臨んでほしい。いいものを伸ばしていくことに注力してほしい。

日本の出生率低下は国レベルであれば前倒しで進行している。塩竈市ではチャレンジとして、成果指標について出生率や健康寿命の数値を入れるなどを検討してみても良いと考える。流山市の事例にも見られるとおり、子育て支援策は現物給付と現金給付を併せてやらなくては好転しないという結果が出ている。また、コミュニティ活動が盛んな地域は出生率が高く、地域の子育ての手がある場所には2人目の子供が生まれている。

塩竈市はポテンシャルの高い地域であると思う。ストロングポイントに注目してほしい。

7. 閉会